

第31回「大津市図書館協議会」の会議結果

- 開催日時 令和6年3月21日（木）13時30分～15時10分まで
- 開催場所 大津市立図書館 読書室
- 出席者 委員8人・事務局9人・計17人
- 傍聴者 無
- 次第
 1. 開会
 2. 市民憲章斉唱
 3. 挨拶（今井会長）
 4. 挨拶（図書館長）
 5. 議事
 - (1) 令和5年度事業報告
 - (2) 令和6年度当初予算の状況
 - (3) 令和6年度事業計画
 6. 報告事項
 7. 閉会

- 会議の概要（発言内容については要旨を記載）

◎議事

[議題1 令和5年度事業報告]

・事務局説明

委員 スマホ利用券の運用状況はどうですか。使い方はどのようなものでしょうか。

事務局 図書館のホームページの『利用者のページ』から利用券番号と利用者自身で設定されたパスワードを入力いただくと、スマートフォンの画面に利用者カードと同じバーコードが表示されます。この画面を提示いただくことで通常の利用者カードと同じように使えます。

委員 何名の方が利用されていますか。

事務局 利用者カードと同様の扱いになり、システム上では紙のカードかスマホ利用券なのかを識別できないため正確な数値は把握しておりません。昨年の7月から運用を開始していますが、高齢の方にもご利用いただくなど年代を問わず便利にご利用いただいている状況です。

委員 お正月に和邇図書館で本の福袋[※]をやっておられた、北図書館でも同じようなことをやっておられたと聞いています。すごく工夫されておられると思いますが利用状

況はどうでしたか。

※司書が選書した本複数をセットにして貸し出す事業。本を自分で選べないため、新しい本との出会いがあり、図書館の利用に親しみや楽しみを持ってもらえる契機となる。

事務局 和邇館では大人向けと子ども向けの福袋を用意して提供しました。好評で用意したものは全てお借りいただきました。

委員 アイデアは活かした、成果があったのですね。

事務局 北図書館においても図書館の職員が本を選び提供しましたが、好評でした。

委員 子どもにどんな本を読ませたらいいのかわからないという人には、すごくいい取組だったと思います。

委員 和邇図書館で対面朗読をしているようですが、どのように実施されていますか。

事務局 利用者から依頼を受けたのち、1回2時間の範囲で朗読ボランティアグループ「朗読の会“燠”」さんをお願いすることになります。気持ちですが謝礼も出しています。また、講習会も行っています。利用は、人数的には少なく3名くらいの方が利用されています。

委員 その講習会は私たちも参加できますか。

事務局 一般の方を対象とする場合は幅広く参加を募っています。

委員 ボランティア活動はすごく大事だと思いますが、時代的にちょっと違うのではないかなあと思うところがあります。魅力ある図書館の事業となったとき、私が子育てしながら図書館の読み聞かせにいかうと思ったら、保育園の先生が来られてやっておられるとか子どもの成長を促す話をしてくれる、そのような読み聞かせなら行きたいと思います。ボランティアさんの読み聞かせも様々かと思いますが、現在の読み聞かせに魅力を感じられないお母さん方が増えているのではないかなと感じています。大学生、教育学部の学生がおはなし会をすとなるとおもしろいかも思ったりもします。そのあたり改善できるのであれば、有償ボランティアとか謝礼を払っておはなし会だけでなく+αのあるおはなし会、参加したいという思いがなければお母さんたちは動かないと思います。ボランティア頼みではなく、そういう方をお呼び（依頼）することも良いのではないか。今後の運営はどのように考えていますか。

事務局 ボランティアだけでなく、図書館司書職員によるおはなし会も多数実施しています。ボランティアの方々も読書活動グループ内で勉強会をされており、向上を図っておられます。例えば幼稚園等から要請があれば、現地に出向いて幼稚園の先生と相談しながらおはなし会などの催しを実施されています。

委員 ボランティアが決して悪いわけではないですが、より良い魅力を発信していくのであれば、例えば小学校や幼稚園と連携して、そこに在籍される先生がおはなし会に来られることで安心するというか、せつかく行政間で連携できるのであれば、小学校に入学するときに「こんな素敵な先生がおられるんだ」とか「本の読み聞かせしてくださるんだ」など、そんなつながりがおはなし会を通して生まれるといいなと思いま

す。

事務局 子どもの読書活動推進では、子どもだけでなく子どもの周りにいる方にも働きかけを行います。今年度でいうと、児童館では保護者の方を対象に、絵本の読み聞かせをする際の注意点について話をさせていただいたり、市内小学校の先生向け講習会に司書を派遣し、「子どもと読書」というテーマで話をさせていただいたり、田上学区のボランティアグループに選書の方法等の研修をさせていただきました。館内で実施する子どもに対するおはなし会だけでなく、館外でも出前おはなし会を実施するとともに、子どもの周りにいる大人たちへ読み聞かせの大切さを普及する活動にも取り組んでいます。

事務局 和邇図書館では、読書ボランティアグループ「志賀おはなし会」が、学校の先生から依頼を受けて、学校が主催されるおはなし会に行っているため、学校からも好評を得ておられますし、日々専門的に練習もされているのでレベルも高いです。また、児童サービス事業に関し、著名な方に来ていただいて、おはなし会の実施に向けた講演会を行うことを計画しており、子育て世代を始め市民の皆さんに幅広く参加していただけるようにしています。定期的なおはなし会の開催については、紙面の都合もありますが、広報おつややホームページ等で周知しています。

委員 ボランティアさんが決して悪いわけではなく、お母さん方の意見を聞いておられるのかなど。アンケートなど実施したり、どういうニーズが今の子育て世代から求められているのかを図書館の職員が直接聞いておられるのかということを知りたいと思いました。事業の実施回数や参加者数等は実績報告として記されていますが、参加された方の意見、たとえばランチ大津京で移動図書館に行かれた際、利用された方の意見を間近で聞いておられた職員の意見が事業に反映されているのか、市民からの直接の意見を聞いたりする場があるのかなあと素朴に思いました。先ほどの意見は、実際に子育て世代のお母さん方と関係性のある仕事をされている委員が、その世代に求められているものと図書館が行っている事業が乖離しているのではと感じておられるということなのかと理解しています。子育て世代が何を求めているのか、お母さん方の意見を聞いているのか、どういうニーズがあるのか把握されているのでしょうか。

事務局 今年度のランチ大津京へ移動図書館の巡回をした際に、移動図書館の利用だけでなく、広く図書館の事業を案内したり、また、子育て世代のお買い物客が多い中、幼児向けのおはなし会を実施して好評を得ることができました。また、定例でのおはなし会の中では、親子で参加された方々に感想をお聞かせいただき、ご意見を参考にしながらおはなし会を進めている状況です。

事務局 特別にアンケートは実施していませんが、おはなし会に参加した子どもたちの反応や要望、来館する子どもたちの声を参考にし、その後のおはなし会の企画運営に活かしています。

委員 市民の声を聞きながら司書職員とともにおはなし会等催しについて裾野の広いレベルアップ、またボランティア育成講座などを新年度の事業展開の中に少しでも取り入れていただければと思います。

委員 長野県塩尻市図書館では、子ども（児童書）コーナーの中に子育て支援センターのカウンターが設置されていて、プレイルームがあり、本を借りに行くとその場で保健師や保育士から子育ての相談を受けられるようになっています。勤務体制やハード面の整備は必要ですが、より来る人は増えるのではないかと思います。また、地域の家庭学級との連携、社会教育の面にもなりますが、そういったものと図書館のおはなし会が重なることでおはなし会に参加することで日々の悩みの相談が気軽に話せるなどの相乗効果が生まれます。そういった+αの取組みが更なる効果を生み出すのではと感じています。

委員 子育て支援の立場から言うと、現状多くの子どもは1歳を過ぎたら保育園へ行くので平日に巷にいるのは0歳、1歳までの子が多い。従って、ストーリー性のある本は通用しない。巷に子どもたちがあまりいない中、図書館で幼児向けにおはなし会を実施しても参加者が少ないのは理解できます。図書館から外へ出て行き、小学校や幼稚園とつながることは効率的だと思います。図書館でやっている限りは本に興味のある親御さんしか来ない。また、おはなし会の参加者が少ないということも聞き及んでいます。すごく良いおはなし会をされていることは分かっていますが、まず人が来る社会状況ではないのかと感じています。多くの人に参加してもらいたいと思うと子どもたちがいるところへ図書館から出向いていくしかないと思います。

事務局 図書館へ来ていただくだけではなくて出前によるおはなし会も実施しています。子育て総合支援センターや小学校から依頼を受けておはなし会も実施しています。

委員 図書館の出前おはなし会に参加された方からは「良かったよ」との声を聞きますしレベルが高いと思っています。おはなし会に人が来るかどうかは図書館のレベルの問題ではない、と思います。

委員 現在、貸出冊数や来館者数も減ってきているなかで、全体的な利用を見た中で考えていけない課題と思います。今回の委員の皆さんの意見を受けて令和6年度の事業展開をみていく中で、また議論を深められたらと思います。

〔議題2 令和6年度当初予算の状況〕及び〔議題3 令和6年度事業計画〕

・事務局説明

委員 予算の構成比ですが、一般会計に対する図書館の予算の比率はどのくらいですか。日本の図書館で活発な活動をしているところは1%程度です。大津市は0.2から0.3%くらいでしょうか。職員体制ですが、正規職員は4%ですが、日本の平均は25%だったかと思います。何か改善に向かって動きがありますか。

事務局 図書館費の一般会計に占める割合は0.28%です。正規職員の数は人事のことで

すので、こちらで申し上げられることではないです。

委員 政策形成のこともありますので要求はしていってください。

委員 会計年度任用職員はフルタイムの方はどれくらいでしょうか。

事務局 会計年度職員につきましては全員パートタイムです。

委員 外部研修に参加とありますが、旅費が少ないですが、どの研修に行っておられるのでしょうか。

事務局 研修につきましては、滋賀県にて行われる研修と、リモートで行われる研修に参加しています。

委員 リモートの研修は何に参加でしょうか。

事務局 バリアフリーの研修に参加しました。

委員 学校評価の際に、学校でこんなことに取り組んでいるという報告よりも、子どもたちはどう思っているのかという視点がありました。図書館も利用者の方はどのように思っておられるのか、数字の達成でなく、目標とする指数では図書館の運営をとらえられなくなっているのではないのでしょうか。利用者の満足度を図るデータのとり方はないもののでしょうか。来館者数や貸出冊数ではなく、図書館へ来てよかった、人生の豊かさを感じることがこの先とても大事になってくると思います。それを図れる指標を編み出して頂けるとよいです。

事務局 来館者の方は楽しんでもらっていると思います。

委員 ちょっとした声を拾いに行って、評価材料にするのも大事かなと思います。

委員 アンケートはやったほうが良いと思います。大学の研究会と山科図書館の協力でアンケートを取ったことがあります。図書館に来ている人に満足度調査をしても、満足しているから来ているのであって、来ない人がなぜ来ないのかが重要。まちづくり調査の中に入れるのが良いでしょう。

委員 利用されない方にとっての図書館とはどのようなものであるのかを調べるのは意義があることです。

委員 指定管理施設では当然のように利用者満足度調査をしています。本音の部分を書いてもらえるので参考になっています。

委員 図書館へ来ない人をどうやって来てもらうのか幼稚園の活動として、移動図書館車が来てくださればよいです。

事務局 小学校は11校がステーションになっています。他の27校には行けていませんが、何校かはスポットで巡回しています。幼稚園保育園にはさざなみ号が大きいので園庭に行くのは安全に問題ありますので、団体貸出で対応しています。おはなし会の要望があればお申し出ください。

委員 「さざなみ号」が行く小学校に幼稚園が行ってもいいのですか。

事務局 ぜひ来てください。

委員 周知がされていないですね。

事務局 周知します。ぜひ来てください。

事務局 旧志賀町域の4小学校には、自治会向けに冊子を作成し、情報提供しています。ミ
ツケル号は運行委託ですが、スポット巡回を計画しています。

委 員 大津市の子育てアプリには図書館情報はありますか。

事務局 毎月掲載しております。

これを持ちまして終了します。